

地域連携だより

Face to Face

第 8 号

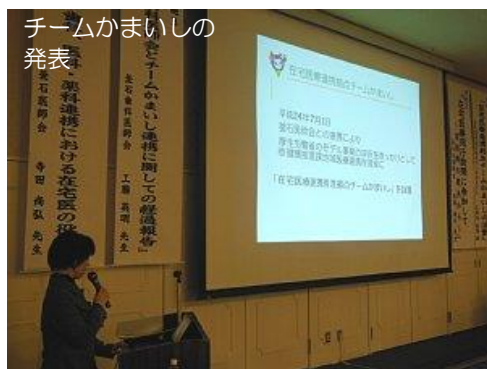
三師会学術講演会を開催しました

2月26日水曜日、ホテルサンルート釜石において三師会学術講演会が開かれました。

この会は、釜石医師会、釜石歯科医師会、釜石薬剤師会の三師会が主催するもので、今年度は「釜石・大槌地区の医歯薬連携について～チームかまいしの活動を通しての連携～」をテーマに講演が行われました。

最初の講演は、チームかまいし連携コーディネーターの小田島係長による「在宅医療連携拠点チームかまいしの取り組み」。「顔の見える関係」の構築から始めた多職種連携が、二次連携となる医科歯科・医科薬科同行訪問研修に繋がっていることを述べました。

次に釜石薬剤師会の宮澤倫子先生が、「在宅医療同行訪問に参加して…～薬剤師の視点から～」と題し、今年度に行った3回の医科薬科同行訪問研修について報告しました。薬剤師のスキルアップや育成、多職種への薬剤師の役割の周知などを課題として捉え、更なる協働と連携の必要性について話されました。



チームかまいしの発表



質問に答える
薬剤師会・宮澤先生

演題3では、釜石歯科医師会・チーム釜石連携委員会の工藤英明先生が「釜石歯科医師会とチームかまいしとの連携に関する経過報告」を発表しました。在宅医療連携に参加する意思のある歯科医師は95%に上ること、それでも訪問診療を躊躇する理由、3回の同行訪問研修を行ったことで在宅への理解が深まった様子など、歯科医師会内での連携会議で出された今後の多職種連携に向けた意見や提案などが示されました。

最後に釜石医師会・チームかまいしアドバイザーの寺田尚弘先生により、同行訪問研修を通じて見えた多職種連携の成果と課題が示されました。多職種連携は参加職種と患者・家族双方にメリットをもたらすものであり、今後も同行訪問研修のほか様々な局面での連携推進が必要であると思われました。



歯科医師会・工藤先生の発表に聞き入ります



医師会・寺田先生にも質問が

講演後は岩手県立釜石病院の遠藤院長により、ICTを利用した情報共有などさまざまな手法で今後も地域包括ケアを進めてほしいと総括がありました。チームかまいしでは、今後も多職種連携を中心に地域包括ケアのまちづくりに取り組んでいきます。

平成25年度 連携の軌跡

平成24年の発足以降、チームかまいしは医療介護の連携拠点として、関係多職種を対象とした研修機会の提供や、課題やニーズを抽出して各職種のマッチングを図るためのチームかまいしと一職種との打ち合わせ会など、連携の推進に向けた様々な事業に取り組んできました。

年度末を控え、ここに今年度の連携の成果を掲載します。平成26年度は、これまでの経過を踏まえてより強力な連携基盤の形成をめざし、医療介護現場へのフィードバックを可能とする実践的な協議の段階へと歩みを進めていきます。

歯科連携

チームかまいし医科歯科連携推進セミナーの開催（4月24日・釜石歯科医師会主催）

チームかまいしアドバイザーの寺田尚弘医師が講師を務め、平成24年度に行った4回の打ち合わせ会で明らかになった課題（医科歯科連携の基盤形成の方法、介護職種との連携、在宅患者にとってのかかりつけ歯科医のあり方など）を共通の認識とするため講演を行った。

医科歯科連携同行訪問研修（全3回）寺田医師の訪問診察に歯科医師が同行する形式の研修

- 5月21日 三浦歯科医院 三浦歯科医師
- 8月29日 工藤歯科クリニック 工藤歯科医師
- 9月26日 久喜神経内科歯科クリニック 久喜歯科医師

医科歯科連携に関する打ち合わせ会（全4回）

7月31日、11月14日、1月16日、2月20日開催。

医科歯科連携の方向性に関する協議、同行訪問研修の反省会、三師会学術講演会の打ち合わせなどを行った。同行訪問は医科、歯科ともに気づきが多く有益なもので、患者や患者からのニーズも高く、今後も継続していくこととなった。ケアマネとの連携や歯科医師によるスクリーニング後のフォローなど、同行訪問の課題については引き続き協議していく。



医科歯科同行訪問研修

薬科連携

釜石薬剤師会研修会の開催（1月28日・釜石薬剤師会主催）

釜石医療圏における薬剤師の在宅医療参加の推進と、多職種における薬剤師業務の理解促進を目的として開催されたもので、4人の講師が講演を行った。チームかまいしは共催として協力し、講師を派遣した。

ケアマネジャー&薬剤師合同研修会の開催（3月10日）

⇒次頁「ケアマネジャー連携」を参照してください。

医科薬科連携同行訪問研修（全3回）

寺田医師の訪問診察に薬剤師が同行する形式の研修

- 10月17日 おおぞら薬局 金澤薬剤師
- 11月28日 せいいてつ記念病院 小笠原薬局長、
中田薬局松倉店 松田薬剤師
- 12月12日 つくし薬局 宮澤薬剤師



医科歯科連携に関する打ち合わせ会（全2回）

7月30日、1月16日開催。平成24年度から数えて5回実施。

薬科・ケアマネ間の連携構築、医科薬科の在宅医療同行訪問研修の推進、チームかまいし医科薬科セミナー開催の3項目が課題にあがった。



医科薬科同行訪問研修

リハ士連携

チームかまいし多職種対象研修会（12月5日・釜石リハビリテーション療法士会主催）

釜石リハビリテーション療法士会（釜石リハ士会）発足の周知と活動支援の一環として研修会の開催を支援し、医療・介護関係多職種に対し学習機会を提供した。講師は神戸大学大学院の石川朗教授が務め、医療・介護関連肺炎に関する講演を約70人が聴講した。

高齢者の増加に伴って肺炎患者の急増が予想されることから、今後、リハ士による肺炎予防対策が期待される。



多職種対象研修会

リハ士連携に関する打ち合わせ会（全1回）

9月3日開催。釜石リハ士会設立の報告と、岩手県内のリハ士の状況報告を受け、12月の研修会の打ち合わせを行った。今後の釜石リハ士会の活動をバックアップすることと、マンパワー不足の問題など職種内の問題点をさらい、連携の中で継続して協議していくことなどを話した。

ケアマネジャー連携

ケアマネジャー&薬剤師合同研修会の開催（3月10日）

チームかまいしと一職種との打ち合わせ会で出されたニーズをマッチングした結果から企画・開催された合同研修会。釜石広域介護支援専門員連絡協議会と釜石薬剤師会が主催し、チームかまいしは共催として運営に協力した。

今回の研修では、グループワークを通じてお互いの職種について理解を深め、共同で多職種連携の課題や解決策を考えることで、顔の見える関係の構築を目指した。



薬剤師との合同研修会

ケアマネ連携に関する打ち合わせ会（全2回）

7月9日、11月28日開催。

二度の打ち合わせを通じて、病院連携の推進やケアマネジャーの組織強化、系統立った研修システムの構築などが連携課題としてあがり、課題の整理と解決への方針が話し合われた。また、多職種症例検討会とケアマネ協議会研修会の開催を計画した。

訪問看護連携

訪問看護連携に関する打ち合わせ会（全1回）

9月25日、初めての打ち合わせ会を開催。

初めに会の趣旨説明を行い、訪問看護に関する資源の把握と、現場で感じている多職種連携の課題について意見交換を行った。訪問看護の組織として「訪問看護ステーション協議会」があり、その岩手県支部沿岸ブロックとして各事業所が活動しているが、住民（サービス利用者）や他職種に訪問看護の仕事内容が十分に理解されていないと感じるという意見があがった。

多職種との連携強化と業務内容の周知を主な課題として、次年度以降も協議を重ねていく。



打ち合わせ会



これらの連携事業だけではなく、市民公開講座や各種フォーラム・研修会などにおいても各職種の皆さんにご協力をいただきました。あらためて御礼申し上げます。
来年度も地域包括ケアの推進に向けて連携の強化にご協力をお願いいたします。

SEE vol.6

会う・見る・調べる
聞く・知る・わかる

医療機関や介護施設等を紹介していく連載「SEE」。
今回は、釜石市と同じ医療圏にあり、東日本大震災で大きな被害を受けた大槌町の健康推進班班長・藤原純枝さん(民生部保健福祉課)にお話を伺いました。

大槌町の医療・保健福祉部局の体制を教えてください。

保健福祉課には、地域福祉班、介護班、地域包括支援センター、健康推進班の4つの班があり、約30人が所属しています。他県や他市町村からの応援職員の方にもお世話になっています。(※2014年3月現在)

震災から3年経ちますが、町民の皆さんの様子はいかがですか。

大槌町では、みなし仮設を含む仮設住宅に住む方、在宅の方、災害公営住宅に住む方が混在しています。時間の経過とともに現在の生活に慣れ、コミュニティーもできていますが、今後の生活に不安を持つ方もいます。

生活不安を持つ方々への支援はどのようにされていますか。

大槌町では震災直後から、社会福祉協議会の生活支援員(LSA)、地域支援員、地域包括支援センター、健康推進班で月1回のケース共有会議を開催してきました。釜石地域こころのケアセンターも加わり、被災者支援室が中心となって、関係者間で情報を共有し、効果的な関わりができるよう努めています。

その他、震災関連で気になることや困っていることはありますか。

学校や医療機関など町の中心となる公共的な建物が多く被災し、公民館や集会所も減少しました。町の皆さんが気軽に集まり交流できる場所が少なくなり、地域活動が難しい地区があります。

また震災により職場を失ったり、転職せざるを得なくなったりした方も多く、働く場を求めて他市町村に移り住む住民が増え、人口の減少が加速するのではないかと心配もあります。

大槌町の「地域包括ケア」の現状を教えてください。

県立大槌病院を中心に、医療機関とは震災前から良い関係です。震災により全ての医療機関が被災しましたが、早い時期から仮設診療所での診療を再開させることができました。これは、全国からの医療等の支援もありますが、地元の先生方の努力があって成し遂げられたことです。

保健事業では、震災翌月からの予防接種も、薬局の協力によりほぼ予定通りに実施できました。また釜石保健所、釜石医師会など、圏域の関係機関の皆様からご支援をいただきました。

また地域包括ケアについて、町では復興実施計画の中でも大槌型の地域包括ケアを目指し、施策に反映するよう取り組んでいくところです。

関係多職種の皆さんに一言お願いします。

震災後は周りの全ての方々のお世話になりました。たくさんのご支援をいただき、本当にありがとうございました。できないと思っていた各種検診も、検診機関の調整により実施することができました。これからも町の人たちや関係機関の皆様とともに支え合っていこうと思います。今後どうぞよろしく願いいたします。



被災した旧大槌小学校の校舎を改築した新庁舎にて取材しました



藤原さんは震災前から町民の健康のため奔走されています

編集後記

私事で恐縮ですが、先日、短期入院しました。人生初の入院に最初は興奮したものの、すぐに不安、退屈、寂しさばかりに。退院後は飼っている猫を撫で回し、自宅で過ごす喜びを噛み締めました。在宅医療がもたらす安心や幸せについて、図らずも我が身で考えさせられました。(N)

発行／在宅医療連携拠点チームかまいし

〒026-0025 釜石市大渡町3丁目15番26号

TEL 0193-55-4536 FAX 0193-22-6375

✉ zaitaku@team-kamaishi.jp

ウェブサイト <http://www11.ocn.ne.jp/~zaitaku/>

ブログ <http://teamkamaishi.blogzine.jp/>